

# 健診受検者におけるメタボリックシンドローム該当者、および予備群の頻度

平成 29 年度に長崎病院ヘルスケアセンターにて、人間ドック・生活習慣病予防健診を受検した 6629 例（男性 4183 例、女性 2446 例）を対象として、メタボリックシンドローム該当者、および予備群の性・年齢別頻度について検討した。

メタボリックシンドロームの診断基準は下記の基準のうち、①の基準を必須項目とし、②～④の基準を 2 つ以上満足する場合をメタボリックシンドローム（メタボ）と診断した。さらに、①の基準に②～④の基準を 1 つ満足する場合をメタボリックシンドローム予備群（メタボ予備群）と診断した。

メタボリックシンドロームの診断基準

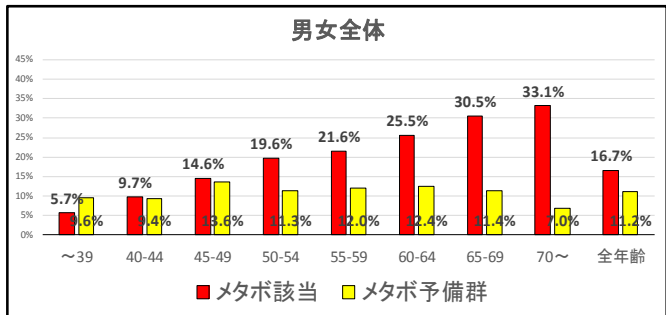
- ① 男性：腹囲 $\geq$ 85 cm、女性：腹囲 $\geq$ 90 cm
- ② 中性脂肪 $\geq$ 150mg/dl または HDL コレステロール $\leq$ 40mg/dl
- ③ 収縮期血圧 $\geq$ 130mmHg、または拡張期血圧 $\geq$ 85mmHg
- ④ 空腹時血糖 $\geq$ 110mg/dl

## 平成29年度 年代別メタボリックシンドローム該当者の比較

集計対象コース：人間ドック、生活習慣病予防健診

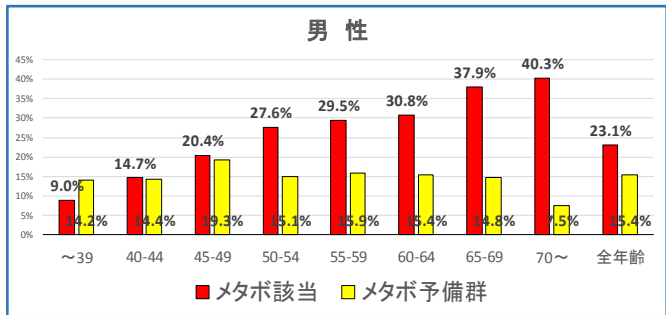
男女全体

対象人数	年度年齢	メタボ		メタボ予備群		非該当	
1,091	～39	62	5.7%	105	9.6%	924	84.7%
1,182	40-44	115	9.7%	111	9.4%	956	80.9%
1,147	45-49	167	14.6%	156	13.6%	824	71.8%
938	50-54	184	19.6%	106	11.3%	648	69.1%
936	55-59	202	21.6%	112	12.0%	622	66.5%
734	60-64	187	25.5%	91	12.4%	456	62.1%
429	65-69	131	30.5%	49	11.4%	249	58.0%
172	70～	57	33.1%	12	7.0%	103	59.9%
6,629	合計	1,105	16.7%	742	11.2%	4,782	72.1%



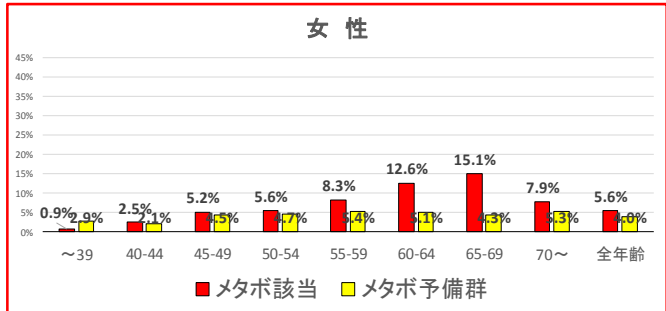
男性

対象人数	年度年齢	メタボ		メタボ予備群		非該当	
648	～39	58	9.0%	92	14.2%	498	76.9%
702	40-44	103	14.7%	101	14.4%	498	70.9%
705	45-49	144	20.4%	136	19.3%	425	60.3%
598	50-54	165	27.6%	90	15.1%	343	57.4%
586	55-59	173	29.5%	93	15.9%	320	54.6%
520	60-64	160	30.8%	80	15.4%	280	53.8%
290	65-69	110	37.9%	43	14.8%	137	47.2%
134	70～	54	40.3%	10	7.5%	70	52.2%
4,183	合計	967	23.1%	645	15.4%	2,571	61.5%



女性

対象人数	年度年齢	メタボ		メタボ予備群		非該当	
443	～39	4	0.9%	13	2.9%	426	96.2%
480	40-44	12	2.5%	10	2.1%	458	95.4%
442	45-49	23	5.2%	20	4.5%	399	90.3%
340	50-54	19	5.6%	16	4.7%	305	89.7%
350	55-59	29	8.3%	19	5.4%	302	86.3%
214	60-64	27	12.6%	11	5.1%	176	82.2%
139	65-69	21	15.1%	6	4.3%	112	80.6%
38	70～	3	7.9%	2	5.3%	33	86.8%
2,446	合計	138	5.6%	97	4.0%	2,211	90.4%



全対象者におけるメタボ該当率は 16.7% であり、男性では 23.1%、女性で 5.6% であり、男性は女性に比して 4.1 倍高率であった。一方、メタボ予備群の該当率は 11.2% であり、男性では 15.4%、女性で 4.0% であり、男性は女性に比して 3.9 倍高率であった。

年齢別に検討すると、メタボ該当率は年齢とともに増加傾向を示しているが、メタボ予備群該当率は全年齢群ともほぼ 10% 前後と加齢の影響は少ない傾向を示している。

性・年齢別にメタボ該当率をみると、男性では 20-30 歳代 (9.0%) から 50 歳代前半 (27.6%) までに約 3 倍と急増し、その後 60 歳代前半までの増加率は約 12% 程度と安定化するが、前期高齢者以降はさらに 20%～30% 増加する傾向が認められた。

一方、女性ではメタボ該当率は年齢とともに軽度の増加傾向を示し、50 歳代後半からやや増加傾向を示し、60 歳代後半に 15.1% とピークを形成し、その後減少する傾向を示した。

メタボリックシンドロームは摂取エネルギー量の過剰（過食）と運動不足が持続すると、内臓脂肪肥満が発生。内臓脂肪蓄積は生物活性物質の変動により脂質代謝異常や高血圧、高血糖が合併し、動脈硬化症が進行するため、脳卒中や心筋梗塞、腎不全などの生活習慣病を発症することが知られている。

今回の調査成績の分析結果から、メタボを発症しやすい年齢層には性差があり、該当年齢で体重増・腹囲増大傾向のある場合は早期に生活習慣の見直しが必要と考えられる。